



こころみ

2011. 6. 30

担当：校長会

「第7次学力向上に関する提言」より<3か年で、各学校で取り組む共通実践事項>
②「活用する力」を育てるための授業づくり…と関わって

今、改めて国語科における言語活動の充実を！

～言語活動が有機的に結びつく単元構想～

.....

- なぜ、国語科の鍛えを取り上げるの？
- 「言語活動」についてはすでにいろいろ情報があるけれど？
- 他の教科にも関わるの？

1 H23年度NRT分析(大館市小・中学校)から見えてきたこと

6月8日に今年度小・中学校の分析会議が開かれました。小・中学校の教科ごとに分析を担当していただき、小・中学校の提言を教頭先生方にお願ひしました。

◎ 小・中学校を通して、全体から気付いたこと →<国語科で鍛える必要性>

(「小問・活用する力の達成状況等からの課題」から)

国語 2年生…「順序立てた作文の効果的な書き方」

3年生…「目的や順序を考えて書くこと」

「話の内容を考えて効果的に音読すること」

4年生…「文の意味を的確にとらえて、読点を打つこと」

5年生…「登場人物の心情を読む」←場面や情景を想像して読む

6年生…「心情や場面描写を読み取る」←叙述に即して読む

中学 1年生…「心情を読み取る」

2年生…「叙述に即した読み」 「文脈上での語句の意味の理解」

3年生…「要点・要旨の読み取り」

☆いかがでしょうか？ 順序(筋道)→場面(叙述に即した読み)

→心情のとらえ等→**要点・要旨の読み取り**

☆実は**国語科以外**でも…

社会 4年生…「グラフから消費生活の特徴を読み取る」

5年生…「開発の前と後の変化について資料を基に比較すること」

6年生…「説明文と生産額の割合のグラフから工業地帯を判断すること」

中学 2年生…「年表や表、地図等の資料から、必要とする情報を取捨選択すること」

〃 3年生…「各時代の政治、文化、社会の様子を多面的に理解すること」

「歴史事象の因果関係を理解すること」

算数 3年生…「mとcmの単位関係と問題場面を理解すること」

4年生…「問題場面の構造をとらえること」

数学 2年生…「具体的な場面における数量関係を方程式に立式すること」

英語 2年生…「場面に応じた適切な表現を用いること」

「手紙の内容を理解すること」

3年生…「まとまりのある内容を聞いて判断すること」

「まとまりのある文章を聞いて、要点を聞き取ること」

☆どうですか？私たちは改めて小学校から中学校へと連続する9年間での関連した指導内容の確認(学び直し)や指導の必要性を感じざるを得ません。

< 順序(筋道)→場面(叙述に即した読み)→比較、予想・推論等→**要点・要旨の読み取り** >

※**国語科のみならず、各教科指導の様々な場面で確認(学び直しの継続)・指導**を！

2 ここ数年の傾向から…＜言語活動の充実…国語科において＞二つの課題

※参考 H 23 年度秋田県国語教育研究会研修部資料



- ◎ 言語活動を活発に行うことが目的化し、指導のねらい(単元のねらい)に結びついていない。
- ◎ 音読(朗読)や書くこと、グループ協議などが、相互の関連が薄いまま、単元の言語活動が配置されている。

3 どのような鍛えを？



- ◎ 単元のねらいを貫く言語活動の位置付け
- ◎ 言語能力を育てるにふさわしい言語活動
- ◎ 興味・関心を生かす言語活動



＜言語活動が有機的に結びつく単元構想を！＞

○ 指導者にとって、単元全体の構想が重要な教材研究の内容となります。

(1)単元の指導目標の設定→ 次のことが大切です。

- ・ 当該単元だけで考えるのではなく、年間指導計画の見通しのもと、どの指導事項を取り上げるかを明らかにする。
- ・ 児童生徒の実態に応じて、その指導事項が示す内容をより焦点化し、具体的に把握する。

～ 下記の 3 つから～

- ア 同系列の前の単元ではどのようなねらいのもとに指導してきたか。
- イ その単元の指導の結果、どのような能力が身に付いたか。
- ウ まだ身に付いていない能力は何か。

○ 当該単元では、特に「ウ」で把握した能力に重点を置くことで、身に付けたい能力を明確にした指導が可能となります。



○ ねらいを確定した上で、新学習指導要領が示す言語活動例を根拠に、言語活動の特徴をしっかりと把握し、教師の意図にふさわしい適切な言語活動を選定します。

(2)身に付けさせたい能力が育つ言語活動と単元構想 → 次のことをする必要があります。

- ・ 身に付けさせたい能力が育つ言語活動と単元構想と関連性をもたせたり、その能力を構成する下位の能力等をリストアップしたりすること。



指導内容をより明確に把握することが可能となります。



- ・ 単元全体にわたって一連の言語活動がねらいに沿って明確になるよう構想する。
- ・ 重点的に指導すべき内容に関連のある言語活動は、単元を通して螺旋的に繰り返し位置付ける。＜…等の試みもどうぞ！＞
- ・ 学習過程が児童生徒にとって課題解決の過程となるよう、導入時に学習の見通しを立てたり、学習の成果を実感できるように学習を振り返る場を設定したりする。

このようなステップの単元構成によって
目の前の児童生徒に最もふさわしい授業が！

☆ 毎日の授業づくりに生かしましょう！

